

国史跡

御厨古墳群





松林山古墳(手前)と秋葉山古墳・稻荷山古墳(奥の山)

御厨古墳群

御厨古墳群は、平成13年3月26日に国の史跡に指定されました。この「御厨古墳群」は、^{しょうりんざん}松林山古墳を始めとする旧御厨村内(新貝・鎌田)にある5基の古墳の総称です。

しょうりんざん 松林山古墳

松林山古墳は全長107m、県内第4位の規模を持つ前方後円墳です。昭和6年(1931)に発掘調査され、中心部から遺物が多く見つかりました。4世紀後半に造られた、大和王権と結びつきの強い豪族の墓と推定されます。



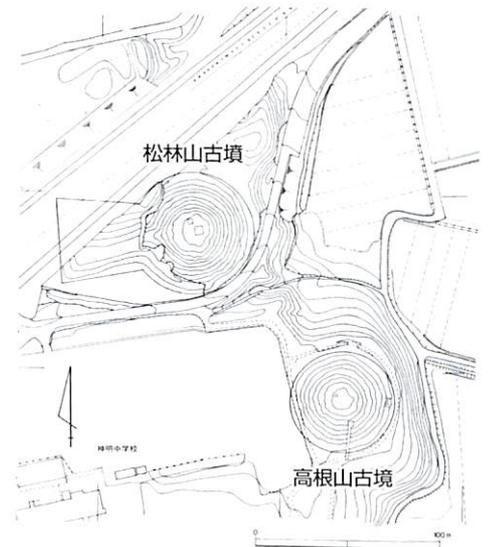
かいくしろ 貝釧 長さ25.3cm

南方産の水字貝で作られています。



さんかくふちしんじゅうきょう 三角縁神獸鏡 径21.2cm

「卑弥呼の鏡」とも呼ばれ、当時の権力を象徴しています。(東京国立博物館 所蔵)



測量図



ともえがたどうき 巴形銅器 最大径7cm

盾に付けたとされる部品です。



ないこうかもん 内行花文鏡 径22.6cm

中国製の優品です。



遺物の出土状況

鏡や玉・腕輪



ことじ 琴柱形石製品 長さ7.7cm

杖の先につけたと考えられます。



石室

天井石が発見されたようす

たかねやま
高根山古墳

高根山古墳は直径52mの円墳で、4世紀末に造られた、松林山古墳の後継者の墓と考えられます。



高根山古墳の葺石

みくりどうやま
御厨堂山古墳

全長34.5mの前方後円墳です。5世紀に造られた古墳ですが、6世紀になって造り替えられました。



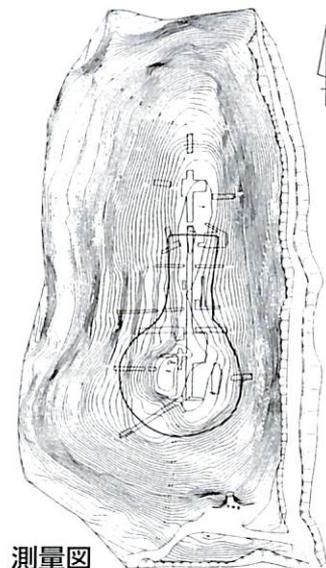
航空写真(上が北)



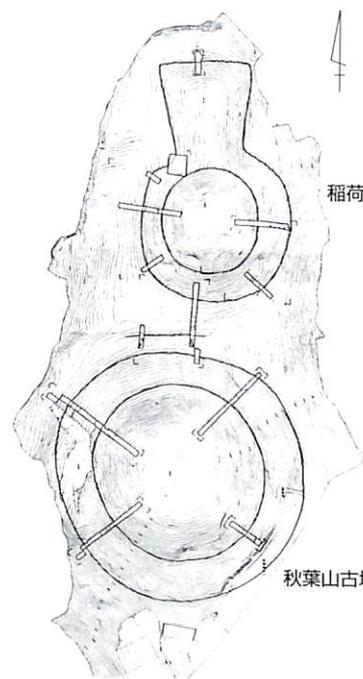
大刀が見つかったようす(5世紀)



明治時代に出土した遺物(6世紀 東京国立博物館所蔵)



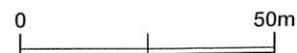
測量図



稲荷山古墳

秋葉山古墳

測量図



あきはやま いなりやま
秋葉山古墳と稲荷山古墳

秋葉山古墳は南北50m・東西46mの円墳、稲荷山古墳は全長46.5mの前方後円墳です。いずれも4世紀後半に造られたものです。松林山古墳とほぼ同じ時期の古墳ですが、造り方などから地元の豪族の墓と考えられます。



稲荷山古墳の壺形埴輪

古墳の周囲に並べられていたようです。



秋葉山古墳の葺石

上下2段に石が葺かれていました。

関連の古墳

新貝17号墳(連城寺5号墳)

稲荷山古墳に隣接していた古墳で、昭和45年に調査された直径30mの円墳です。鏡2枚などが見つかりました。



変形神獸鏡 径16.0cm



新貝17号墳の中心部

経塚古墳

明治時代に東海道本線の工事で破壊された古墳で、その際に鏡などが見つかっています。全長約90mの前方後円墳と伝えられています。



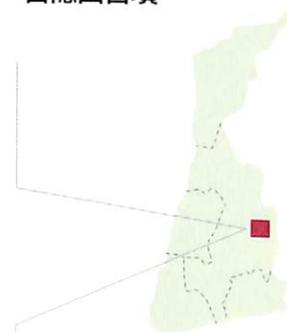
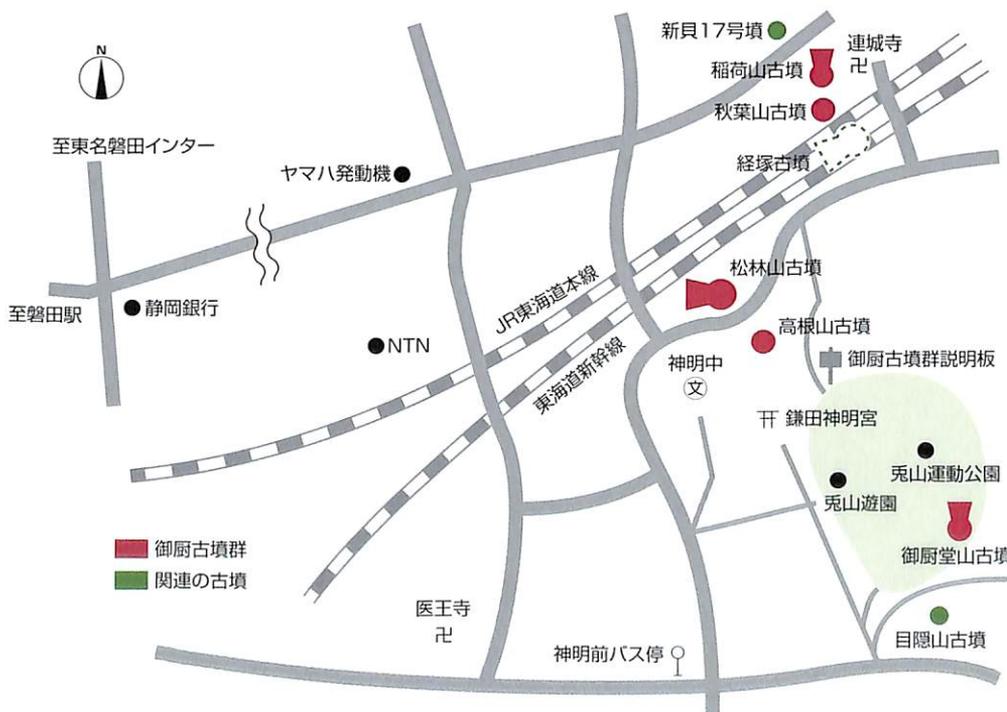
経塚古墳 三角縁神獸鏡(県指定文化財)径22.0cm

目隠山古墳

南北35m、東西33m、高さ5.8mの円墳で、5世紀に造られたと考えられています。



目隠山古墳



交通機関

■東海道本線磐田駅下車
遠鉄バス2番ポール 城之崎線
鎌田經由東新町行き神明前下車
(所要15分)

問い合わせ先

磐田市教育委員会文化財課
静岡県磐田市見付3678-1
TEL (0538) 32-9699

発行年月日 平成21年3月改定